

広域消防力向上のために

北海道 富良野広域連合消防本部

1 富良野広域連合消防本部の概要

富良野広域連合は、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の1市3町1村で構成し、北海道のほぼ中央に位置しています。管轄人口は、43,818人、管轄総面積2,184km²で、東京都（2,187km²）とほぼ同じ広さです。

1本部、2消防署、3支署、1出張所を配置し、車両台数68台、職員120名で各種災害に対応し、地域住民の安全・安心の確保に努めています。

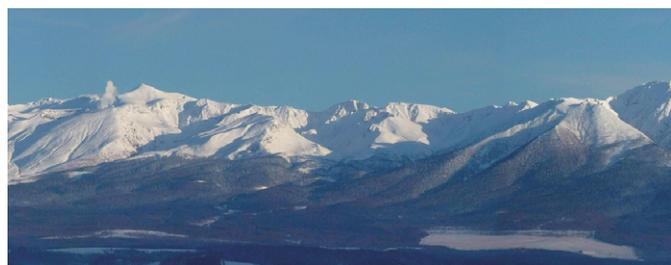
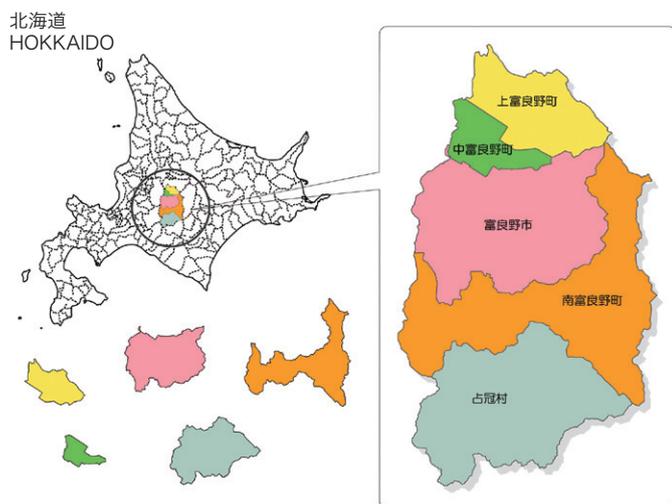
本管轄内の地勢は、東に大雪山国立公園の十勝岳連峰、西に富良野芦別道立自然公園の夕張山系が並び、この2

つの山脈に挟まれるように富良野盆地が形成されており、その中を石狩川水系空知川や富良野川が貫流しております。また夕張山系から日高山脈に至る南部地域では、太平洋に注ぐ沙流川水系など風光明媚な自然環境を有しています。気候は気温の日較差、年較差が大きく、夏の最高気温は30度を超え、冬の最低気温は零下30度近くまで下がり、国の特別豪雪地帯（富良野市、南富良野町、占冠村）、豪雪地帯（上富良野町、中富良野町）に指定されております。

2 広域化に至る経緯

平成12年12月より富良野地区広域市町村圏振興協議会において、今後の圏域の有り方の議論を重ね、平成18年富良野地区広域市町村圏振興協議会で圏域が目指す将来像を検討し同委員会において富良野圏域は「合併」という形を志向せず、各自治体が自立性を保ちながら連携を強める「広域連合」を5市町村で目指していくことで合意、平成19年富良野広域連合準備委員会事務所開設、同準備委員会設立し「消防」「環境衛生」「学校給食」「串内草地」の事務を広域連合での取組みに決定、そして平成20年6月には各構成市町村議会のそれぞれの議会において広域連合設置議案の議決を受け同年9月1日富良野広域連合設立、平成21年4月1日から事務事業を開始しました。

管内図



十勝岳・富良野岳



富良野広域連合発足式

3 広域化の効果

広域化の効果として機動力の向上と出動体制の強化が可能となり、地震、噴火、風水害などの大規模な自然災害、同時多発的な事故や災害時などに対処するため、初動、応援体制の強化、出動車両の増強、また関係市町村、その他の防災関係機関との情報共有及び連携の緊密化を図り、各種防災会議、防災訓練などへの積極的な参加協力を努める等災害発生時の迅速かつ的確な対応に努め、一定程度以上の成果を上げております。

一方経費面では、平成26年度中に整備するデジタル無線施設等についても、多額の経費負担を広域化により市町村で分担できる事等により大幅な経費節減などのメリットがあげられています。

4 今後の課題

広域化発足から5年有余経ちますが関係市町村の規模や財政力の違い、また発足当時の課題である職員の処遇面について、身分、給与格差是正のための適正な給与水準、また消防通信指令業務の1本化等、統一すべく鋭意努力して参りましたが、未だ苦慮しているところです。

平成23年広域管内で発生しましたJR石勝線トンネル内列車火災を踏まえ、また活火山を有する十勝岳の噴火など想定される大規模災害にも対応できるよう消防装備の充実や機動力の向上など、さらなる消防体制の整備に努めていきます。

この様にまだまだ問題はありますが今後も限られた財源の中で質の高い広域消防力を目指し組織を構築していきます。

5 おわりに

消防の広域化によって、圏域住民の快適で安全安心な生活のため、広域連合及び関係市町村が更に連携を強化し、広域化によるスケールメリットを生かした消防サービスの高度化を図り業務能力の向上を目指してまいります。



富良野地区消防総合訓練大会



広域化後の合同訓練